



e-La Voz  
「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』  
日本語放送  
メールマガジン  
(第27号)

2005年2月24日発行

## ゆう君のミネアポリス・レポート冬の巻

皆さんお変わりありませんか？ 僕は毎日課題に追われてますが、元気でやっています。

最近ようやく少し暖かくなり雪が溶け始めてきたなと思っていたら、大雪が降ってまた振り出しに戻りました。ミネソタの頑固な冬はまだまだ健在のようです。《苦笑》 雪にはしゃいで、わざと積っている場所を通りて学校へ向かっていた頃が懐かしいです。いつの間にか、肩を怒らせて濡れないように雪を避けて歩く自分に気が付いてちょっと寂しい反面、ミネソタにも慣れてきたなと感じる今日この頃です。

今回は話したいことが沢山ありすぎて、どうまとめてよいか分からなりません。《苦笑》 今学期はどの授業も非常にためになるというか、どれも楽しく受講させてもらっています。毎回自分が伸びているのが分かるような気がして、課題にも気合が入ります。こんな事は滅多に無いので、この感覚が失われる前にしっかり学びたいです。それぞれの授業が相互に絡んでいて、一つの授業で学んだことが明らかに他の授業にも役立っている感じです。

まず、Creative and Critical Thinkingという、タイトルの通り人間の創造性と鑑識眼について学ぶ授業ですが、右脳と左脳の関係や時間の使い方、アイディアの出し方など、毎回新しい目がひらくれます。自分は今までかなりの堅実派だったので、この授業でもう少し自由な発想が磨ける気がします。クリエイティブで肩の力が抜けると、今度はデッサンに反映してきました。オーソドックスな芸術の基礎に立ち返る必要があると思い選んだ授業ですが、クリエイティブの授業で柔らかくなったり頭で絵を描いていると、ドンドン本能的に絵が描けるようになってきました。言葉では説明しにくいのですが、「体で描く」という感覚を覚えています。ピカソやポロック等の抽象画も感覚的に理解できはじめたような気がします。昨日の授業では、講師に「ジャコメッティーが乗り移った」といわれるほど彼に近い感覚の絵を描いていました。《苦笑》「学ぶ」段階としては良い兆候だと思います。デッサンは専攻とは関係はないのですが、今一番伸び伸びとした学びを実感できる楽しい授業です。



クリエイティブな考え方とは、ファインアート(美術)とは対極の授業でも威力を發揮します。コンピューターを中心となる専攻のインタラクティブ・メディア(相互作用メディア)では常に新しい発想を目指しているので、次から次へと新しいプログラムを使いたくなり、インタラクティブ自体が柔軟にいろいろなものを詰め込めるのでアイディアは尽きません。別のスタジオの授業でとっているサウンドのクラスで学んだ「音」をそのままインタラクティブで使うといったことも出来ます。インタラクティブは人間とコンピューター、もしくは人間同士の対話を目的としています。「対話」では人間は五感を通して相手に自分の意志を伝えることから始まります。そこで今度は最後の授業、「5 senses」が役立ちます。その名のとおり「五感」に関するあらゆる事を学ぶ講義中心の授業ですが、この授業で学ぶことは視覚だけではなく、サウンドの授業で使う聴覚の他、インタラクティブで使う全ての感覚と繋がってきています。全部をひっくるめて、"クリエイティブ"な作品を作ろうというのが今の課題です。どの授業も気が抜けない、とても忙しい毎日です。《笑》

クリエイティブで学んだことを生かして「新しい事を」と考えると、周りには挑戦してみたいことが山ほどありました。一番大きいのが、わが校がサポートしている交換留学生プログラムを利用して来学期からオーストラリアの学校に行こうという計画です。作品はもちろん、教授の推薦状や面接など色々な条件を満たした上で、その中からさらに選ばれるので、まだ行けるとは決まっていませんが、申し込みだけはするつもりです。ドイツ語も勉強中ですが…、新しい言葉を覚えるのはなかなか難しいですね《汗》 その後は同じ方法で日本の学校に行き、日本のデザイン状況を覗いて、最後にミネソタで卒業して締めくくるといった感じです。今そのアプリケーションの準備真只中です。

とまあ、これが僕の今の状況です。めちゃめちゃ忙しいけど、これまでにないくらい充実しています。忙しく動き回れるだけがあるのは幸せな事です。そうそう感謝祭のe-La Vozが届いたときは、ちょうど学校では学期最後の3日間だけの休み前でした。読みながらふと自分に感謝が足りないことに気がつきました。最近、何に感謝しただろう、誰に感謝しただろう…。すべてを当たり前ときめつけて自分に与えられているもののへの有難さに気がつかない人間になっていました。好きな勉強をさせてもらっていること、手が動くこと、目が見えること、屋根も壁もある部屋に住んでいること、あればきりが無いほど自分は与えられ続けてここにいるのだと、いまさらながら気づかされました。サンクスギビング。その名のとおり神様をはじめ自分のまわりに感謝をしてすごすことができました。

今、グラフィック・デザインのプロジェクトで自分のホームタウンを調べています。エクアドルのキトを検索したところ、「アンデスの声」が出てきました。涙が出そうでした。毎週「日曜学校」で集まった尾崎先生の家が瞼にうかびました。みんなで楽しくうたった日曜学校の歌、その後遊んだドミノやルミキューブ、ゲームの入った戸棚、エスペニョールのサンドイッチ、学校帰りにはHCJB日本語部のオフィスにいつも立ち寄らせてもらいました。キャンドルを灯して人々をまわって歌ったクリスマス・キャロルと思い出はつきません。

そして！ この春休みに、友達に便乗してシカゴに行けるかもしれませんことになりました！ まだ確実ではないのですが、一晩だけならなんとかなりそうです。是非、是非、是非、先生たちに会いたいです。 裕一郎

#### 【田辺裕一郎さんのプロフィール】

両親はエクアドルでバナナ農園を経営。キト日本人学校からアライアンス・アカデミー校にすすみ高校を卒業。現在は米国ミネソタ州ミネアポリス市の大学でコンピューター美術(インタラクティブ・メディア)を専攻。

HCJB日本語放送担当

在住 尾崎一夫 久子

#### 【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://www.hcjb.org/japanese/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム(<http://www.hcjb.org/japanese/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり(<http://www.hcjb.org/japanese/mmz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、HCJB日本語放送までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録もHCJB日本語放送までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。

Copyright © 2005 by HCJB. All rights reserved.



日本語ホームページ: <http://www.hcjb.org/japanese/>

Eメール: 碱電 [kozaki@hcjb.org](mailto:kozaki@hcjb.org)

郵便の宛先:

Mr. & Mrs. Kazuo Ozaki

1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.